

図書館員のひみつの本棚 第 140 回

祝 140 回目にご紹介するのは、どんな人でも毎日お世話になるあの場所についての本です。

『トイレのおかげ』

森枝 雄司／写真・文 はら さんぺい／絵 福音館書店 1972年 1, 188円

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年☆☆☆ 中学年☆☆☆ 高学年☆☆ 中学生——
高校—— 一般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

福岡市の街中もクリスマスの飾りでいっぱいになってきていますが、スペインのバルセロナでは、クリスマスの飾りの中に、ウンコやオシッコをしている人の姿の人形があるそうです！その名も「カガネー」。この本の表紙の写真がそれです。キリスト教のクリスマスは実は厳かで、堅苦しいもの。いっぽうウンコをしている姿は普段の生活そのもの。この人形は現実をしっかりとみつめようとするバルセロナの人々の性格を表しているそうなのです。

この人形にびっくりした著者が、世界中のトイレのことを調べたのがこの本です。トイレのやり方も、トイレに対する考え方も、トイレで使用する道具も、驚くほど様々です。また、時代によっても変化しています。

大人でも知らないトイレに関する知識を、たくさんのカラー写真や絵を交えながらやさしく説明してくれます。ぜひ、大人も子どもも一緒に読んでみてください。

<子どもに手渡す時のポイント>

トイレは毎日使っている場所ですが、汚いとか、恥ずかしいとか思っている子どもも多いのではないのでしょうか。トイレの大切さを、体の健康面からではなく、トイレという場所の文化的、歴史的、科学的視点から伝えることで、へえーと楽しみながら、自分自身のことにも重ね合わせて考えることができる 1 冊です。「カガネー」のページを紹介すれば、子どもたちが興味津々になることは間違いありません。ぜひ、1 冊ブックトークしてみてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

